授業モデル

第５学年	国語科

単元名（教材名）
優れた表現に着目して読み、自分の感じたことが伝わるように朗読しよう。
（光村図書『国語　五　銀河』「大造じいさんとガン」）

本時の目標
優れた表現に着目し、想像したことや自分の考えたことを踏まえて、朗読の仕方について考えることができる。　〔思考力、判断力、表現力等　Ｃ「読むこと」（Ｉ）エ〕

読解力向上プランVer．２における指導のポイント
⑬「～がおもしろかった」「～がよかった」「とても～」「すごく～」などの表現で満足せず、思いや考えを的確かつ豊かに表現させる。（具体例同定）

	学習活動	指導上の工夫
導入	○前時の学習を振り返る。	・情景描写や心情・人物像などが想像できるような表現に着目して読むことを押さえる。
展開	○優れた表現から具体的に想像したことや自分の考えたことをワークシートに書き込む。 ○具体的に想像したことや自分の考えたことが伝わるように、どのように読むのかをワークシートに書き込む。 ○３～４人のグループで、具体的に想像したことや自分の考えたこと、どのように読むのかなどを交流し、朗読の仕方について話し合う。	・困っている児童には、会話文や心情が分かる表現を見付けるよう助言する。 ・音読と朗読の違いや朗読記号の使い方についてもう一度確認する。 ・全員の考えを共有し、優れた表現から想像できることや考えられることを深めさせる。 ・より聞き手に伝わる朗読になるように、読み方を工夫させる。
まとめ	○グループで考えた朗読の仕方について、全体で交流する。	・今日グループで考えたことを朗読するときに生かすよう伝え、次時の学習の見通しをもたせる。

◇実践のポイント◇
①単元を通して、さまざまな学習活動の中で思ったことや考えたことについて、どうしてそう思ったのか、どうしてそのように考えたのかという理由や根拠を大切にしながら授業を進めます。そうすることで、「○○と書いてあるということは、大造じいさんは…な気持ちだと思います。」などと本文の叙述に基づき、論理的に考えることができるようになります。
②３～４人程度のグループで話し合うことで、自分の思いや考えを発言しやすく、優れた表現に着目してより意欲的に読むことができます。また、どのように朗読するかを考え、話し合うことは、人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果に気付いたりすることにつながります。

◇活用できる単元例や教材例◇
「たずねびと」光村図書『国語　五　銀河』
「おにぎり石の伝説」東京書籍『新しい国語　五』
「いつか、大切なところ」教育出版『ひろがる言葉　小学国語　五上』